

協働の機会提案書(継続提案用)

平成29年9月25日

印西市長 板倉 正直様

(登録者) 登録番号 17-002
 名称 NPO法人小林住みよいまちづくり会
 所在地 印西市小林北2-9 コスモプラザ2階
 代表者職氏名 理事長 高橋 誠 印
 連絡先 0476-97-2101

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	道作古墳群歴史広場の維持管理事業
現状・課題 (前年度の実施を踏 まえた課題)	維持管理業務の活動上の問題点は特にはないが、地域の皆様が散歩の途中、休日の憩いの場として、いかに気楽に立ち寄って頂けるか、そして景観上も素晴らしいと思って頂けるよう更に美しい広場にする余地がある。このために、次年度も引き続き周囲の土手に植栽の拡大を図り美観向上に努めると共に、更に、周辺から広場までの散策路の整備を行い、アクセスの利便向上を図りたい。また見学会等には、古墳周辺の地元の方々の参加が少ないようであるので参画を含め重点的に勧奨したい。
提案理由	会設立時からの道作古墳群草刈りの実績、広場に近いという地の利を活かし、きめの細かい維持管理を今後も継続していきたい。特に、広場全体、導入路の整備を更に進め、より多くの皆様が気楽に立ち寄れる憩いの場として歴史感を感じて貰える愛されるスポットになるよう変えていきたい。
提案内容 (前年度の実施を踏 まえた改善内容)	前年度の業務(墳墓及び広場の草刈り、樹木除伐、落葉かき、機材管理、文化財普及イベント、市民の声を聞くためのアンケート調査、HP・機関誌などによる広報活動の計画的実施)を継続する。また見学会の際のアンケート意見を市民の声として受け取り、広場周りの土手への植栽、見学会の充実等を図り、併せて景観上の向上にもつなげて行きたい。
貴団体の特性、協働 で実施するメリット	12年以上にわたり道作古墳の草刈りを実施してきており、メンバーが古墳群に近いところに居住しているため、地域密着型、地域性を活かした日常の監視、維持管理業務に反映させたい。また、機材、イベント設備を会として所有、準備しており、順応性が高く、更に、メンバーの人的資源が多彩、豊富であり臨機応変に対応でき有効活用ができていると考えている。
継続実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)	“見違えるような広場”になったという評価を得るとともに、アンケート結果でもあるようにこの地域の「歴史」を改めて感じ取って貰っているという印象を受けている。日々の散策にも利用している方々が多くなりつつある現在、散策路の整備、景観向上、出土品の展示・解説を含む見学会等を通して郷土の歴史意識の啓蒙を更に図っていくこととする。また、年々ホームページのアクセス数の増、機関誌瓦版の配布拡大の効果もあり地元小林地区だけでなく印西市全域、あるいは近隣域への認知度が向上しつつあると考えられるので、今後も更なるPR活動も活発に進めていきたい。

協働事業計画書			
事業名	道作古墳群歴史広場の維持管理事業		
事業の目的	古墳群と広場の草刈り、樹木管理、清掃、文化普及イベントに加え周辺道路等を整備し、より多くの市民が安全に憩えるふれあいの場にする。		
市の施策上の位置付け及び協働部署	(施策名) 文化財の保護・活用 (部署名) 教育委員会 教育部 生涯学習課		
事業期間	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日		
事業の内容 詳細に役割分担別に記入 (役割分担を、できれば事前に市の担当に相談して記すか、希望を記す)	提案者	市	
	○墳墓・古墳広場の草刈実施 ○樹木の管理 ○広場全体の清掃 ○建物と機材の管理 ○古墳導入路となる周辺道路整備 ○文化財普及イベントの共同開催 ○HP・機関誌等による広宣活動 ○地域住民のニーズ調査 ○古墳を軸に郷土の歴史意識の啓蒙	○管理についての相談・協議 ○文化財普及イベントの共同開催 ○古墳出土品の展示・説明 ○「広報印西」等による広宣活動 ○道作古墳パンフレットの作成	
事業に要する経費 ※詳細については、様式③による	62,000 円	1,008,000 円	
事業の運営体制 (事業関係者、協力者、有資格者など)	草刈作業等に従来から経験を積んでいる 20 名程度が従事しており、労働安全衛生特別教育（刈込機、チェーンソー）、防火管理者、衛生管理者、危険物取扱者、電気主任技術者、施工管理技士、建築士、公害防止管理者、農作物耕作などの資格、スキルを有している。		
協働のメリット (各立場にとっての効果を簡潔に)	提案者	市民	市
	人的資源などの特性を有効活用できる。各団体の中心的立場に属してる者が多く、機会あるごとに情報発信が出来る。	景観も美しく市民が安心して憩える広場になり、またイベント等を通して、道作古墳を核にした一帯の郷土の歴史意識を高めることが出来る	歴史広場に関する市民の評価や意見を維持管理に反映できる。また、経費が大幅に削減できる。
対話方法 市との協議や打ち合わせ方法	市へ事業の進捗状況及び実績を報告するとともに、打合せ、メール、電話で随時情報交換している。		
事業の周知や評価の方法	HP には「道作古墳」のページを設け随時情報発信している。アクセス数は平均で月 1,700 アクセス。機関誌（瓦版）も半期ごとに道作古墳関連の記事を掲載し 1,000 部を、各町内会、学校、団体等に配布し周知。年 2 回の文化財イベント開催時にアンケート調査を実施し、「市民の声」として自己評価、改善を図ると共に市に報告している。		
備考	関係団体等		
	その他（添付書類等） ① 機関誌（瓦版） ② 当会の紹介パンフ ③ 遺跡古墳地図（兼 小林ウォーキング MAP）		

企画提案型協働事業経費内訳書

総事業費（無償分を含む） 金 1,783,000 円市から団体への委託費 （金 1,008,000 円）

【歳入】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
市に負担を求める額	人件費(*1)、 車両費、機材費、保険料、管理費、焼却費	1,008,000
その他収入		
提案者負担分	春、秋2回の文化財普及イベントに関わる人件費(*2)	62,000
無償労働力等換算金額	人件費 593,000 機材費 120,000	(713,000 円)
合計（無償分を含めない）		1,070,000 円
無償分を含めた合計額		(1,783,000 円)

【歳出】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	(円)	見積り金額(円)
人件費 *1	墳墓草刈り:面積 1,770 ㎡×44 円/㎡×4 回/年 古墳広場草刈り:面積 1,794 ㎡×44 円/㎡×6 回/年 樹木枝下ろし・除伐:10 人時/回×3,000 円/人時×2 回/年 落葉かき・枯枝処理:10 人時/回×2,000 円/人時×2 回/年	311,000 473,000 60,000 40,000	884,000
人件費 *2	春の見学会:1,000 円×32 時間=32,000 円 秋の見学会:1,000 円×30 時間=30,000 円		62,000
車両費	軽トラ:10 回/年×3,000 円/回		30,000
機材費	チェーンソー、プロワー:10 回/年×1,000 円/回		10,000
保険料	傷害保険、賠償保険		44,000
管理費	建物・機材点検:12 回/年×500 円/回		6,000
焼却費	刈り草・枯枝・落葉:200kg/回×8 回×21.6 円		34,000
提案者が負担する無償労働力	瓦版・HP作成(18 回):276 人時/年×1,000/人時 アンケート調査(2 回):76 人時/年×1,000/人時 周辺道路等の草刈り:面積 410 ㎡×44 円/㎡×7 回/年 周辺道路等の草集め:7 人時/回×1,000 円/人時×7 回/年 道路等の枝拾い:8 人時/回×1,000 円/人時×4 回/年 植栽(土手部分):8 人時/回×1,000 円/人時×3 回/年 遺跡・古墳資料等作成:10 人時/回×1,000 円/人時×1 回	276,000 76,000 126,000 49,000 32,000 24,000 10,000	(593,000 円)
提案者が負担する無償機材	春の見学会:テーブル、テント、椅子等(野点、出土品展示) 秋の見学会:テーブル、テント、椅子等(出土品展示、説明会)	60,000 60,000	(120,000 円)
合 計(無償分を含めない)			1,070,000 円
無償分を含めた合計額			(1,783,000 円)

以上、千円未満端数は切り捨て

年間事業スケジュール

実施予定日	活 動 内 容	必要経費	参加人数
4月上旬	春の道作古墳群見学会 (提案者負担分)	32,000 円	120 名
4月中旬	道作古墳群 広場草刈り (機関誌 瓦版発行)	88,000 円	10 名
5月中旬	道作古墳群 墳墓草刈り	78,000 円	10 名
5月中旬	道作古墳群 広場草刈り	89,000 円	10 名
6月上旬	傷害・賠償保険契約	44,000 円	
6月下旬	道作古墳群 墳墓草刈り	82,000 円	10 名
7月中旬	道作古墳群 広場草刈り	117,000 円	10 名
8月中旬	道作古墳群 広場草刈り	87,000 円	10 名
8月中旬	道作古墳群 墳墓草刈り	78,000 円	10 名
9月中旬	道作古墳群 広場草刈り	87,000 円	10 名
10月上旬	(機関誌 瓦版発行)		
10月下旬	道作古墳群 墳墓草刈り	78,000 円	10 名
10月下旬	道作古墳群 広場草刈り	89,000 円	10 名
11月上旬	落葉、枝下し	25,500 円	10 名
11月中旬	秋の道作古墳群見学会 (提案者負担分) (小林ウオーキング・芋掘りと同時)	30,000 円	60 名
12月中旬	ひこばえ除伐・枝下し	34,000 円	10 名
1 月	点検、ごみ拾い		6 名
2 月	点検、ごみ拾い		6 名
3 月	落葉、枝集め	25,500 円	10 名
毎月	施設点検	年 6,000 円	12 名
		合計 1,070,000 円	

◆ホームページはブログ形式で随時更新。月 2 回～3 回程度

◆機関誌（瓦版）は学校・団体等 1,000 部配布 年 2 回+臨時 1 回

(提案書 様式①-2)

協働の機会提案書(継続提案用)

2017 年 9 月 25 日

印西市長 板倉 正直 様

(登録者) 登録番号 28-005

名 称 ALIpro (アリプロ)

所在地 印西市武西学園台

代表者職氏名 代表 木村 憲

印

連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	地域住民への身体活動増進プログラムの提供
現状・課題 (前年度の実施を踏 まえた課題)	本団体アリプロは「地域住民への身体活動増進プログラムの提供」を協働事業として実施してきた。これは、歩数計と IT 技術を援用して、運動習慣のない地域住民(40 歳以上)の日常的な身体活動(散歩、買い物、家事など)の増加を促す取り組みである。しかしながら、前年度の参加者の多くは比較的な身体活動レベルが高く、本当に支援の必要な住民への普及は十分とは言えない。
提案理由	2013 年厚生労働省「健康日本 21」において、生活習慣病(糖尿病、心臓病、脳卒中)の発症予防のための身体活動ガイドラインが示された。身体活動の重要性を広く住民に啓発し、住民の身体活動の積極的な増進を図るために、自治体と市民が連携した枠組みの構築が急務である。
提案内容 (前年度の実施を踏 まえた改善内容)	住民の身体活動の増進を図るために、自治体と連携して次の事項を付加し活動を継続する。1) 健康講座を通じた普及活動、2) 運動教室の開催、3) 市民サポーターの育成やコミュニティの醸成。必要経費は 200 万円程度で見込んでいる。
貴団体の特性、協働 で実施するメリット	東京電機大学工学部(スポーツ健康科学研究室)との連携により歩数計と IT 機器を援用したシステムの導入が可能である。健康増進課(特定健診)との連携によって生活習慣病予備群へのプログラム提供と、講演会を通じた大規模な啓発と参加者の拡大が期待される。
継続実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)	本プログラムは、複数の地域施設(コミセンなど)を活動拠点とし、IT 機器を用いて広域的な支援を提供できる。健康増進課との協働により、運動不足にある市民への周知とプログラムの提供といった連続的な支援体制が生まれる。これによって市の健康増進事業に一定の効果が期待され、ひいては健康長寿社会の実現にむすびつく。

協働事業計画書			
事業名	地域住民への身体活動増進プログラムの提供		
事業の目的	健康増進を目的として、運動習慣のない地域住民に積極的な歩行活動や日常的身体活動を促す支援を行う。		
市の施策上の位置付け及び協働部署	(施策名) 生涯いきいきと健やかに暮らすための健康づくりの推進 (部署名) 健康増進課		
事業期間	平成30年4月1日 ～ 平成31年3月31日		
事業の内容 詳細に役割分担別に記入 (役割分担を、できれば事前に市の担当に相談して記すか、希望を記す)	提案者	市	
	○データ管理・整理 ○講演会・セミナー開催 ○自立支援・ITサポート ○体力測定会の開催 ○必要機材の選定	○公共施設の提供・調整 ○参加者募集(案内配布・市報掲載)	
事業に要する経費 ※詳細については、様式③による	200,000 円	1,150,000 円	
事業の運営体制 (事業関係者、協力者、有資格者など)	情報工学(東京電機大学)ならびに健康科学(順天堂大学)を専門とする大学研究機関と連携し、市の協力を得ながら本団体主動のもと運営する。		
協働のメリット (各立場にとっての効果を簡潔に)	提案者	市民	市
	・ 団体主要事業の基盤形成、安定的運用 ・ 活動範囲と人的資源の拡充。	・ 生活習慣病予防 ・ 健康増進意識の高揚 ・ 健康寿命延伸 ・ 良好な人間関係の構築、生きがいづくり	・ 健康増進事業の拡充 ・ 医療・介護に関わる財政負担軽減
対話方法 市との協議や打ち合わせ方法	適宜、進捗状況についてメール等により情報交換を行う。事業の中間と終盤に本活動の実績・成果を相互に確認する機会を設ける。		
事業の周知や評価の方法 (具体的な目標値など)	会員の募集は市報ならびにチラシにより周知する。本活動の達成目標(会員数、身体活動増進プログラムの効果)を明確化し達成度を評価する。		
備考	関係団体等：東京電機大学、順天堂大学		
	その他(添付書類等)		

(提案書 様式③)

企画提案型協働事業経費内訳書

総事業費（無償分を含む） 金 2,532,600 円

市から団体への委託費 （金 1,150,000 円）

【歳入】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
市に負担を求める額	人件費 ^{※1} 480,000 円 報償費 ^{※2} 280,000 円 備品費 ^{※3} 200,000 円 データ通信費 ^{※4} 100,000 円 消耗品費 ^{※5} 24,000 円 印刷製本費 ^{※6} 60,000 円 通信運搬費 ^{※7} 6,000 円	1,150,000
その他収入	会費 120,000 円	120,000
提案者負担分	団体負担 80,000 円	80,000
無償労働力等換算金額	労働力 482,600 円 機材等 700,000	(1,182,600)
合 計（無償分を含めない）		1,350,000 円
無償分を含めた合計額		(2,532,600)

【歳出】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
人件費 ^{※1}	受付・情報管理業務 1000 円×4 時間×2 人×60 回	480,000
報償費 ^{※2}	健康講座講師謝礼 10,000 円×4 人 セミナー指導者謝礼 10,000 円×4 人×3 回 運動教室講師謝礼 10,000 円×4 人×3 回	280,000
備品費 ^{※3}	健康管理システムソフトウェア(Pysics-e)	200,000
データ通信費 ^{※4}	Wifi 通信費 1 (b-mobile) 更新カード 30,000 円 Wifi 通信費 2 (Y!mobile) 更新ライセンス 70,000 円	100,000
消耗品費 ^{※5}	リチウム電池 200 円×120 個	24,000
印刷製本費 ^{※6}	チラシ、案内、テキスト等 60,000 円	60,000
通信運搬費 ^{※7}	案内郵送料 6,000 円	6,000
測定実施費用その他	体力・体組成測定評価・データ管理依頼費 200,000 円	200,000
提案者が負担する 無償労働力	ワークショップ補助員：950 円×2 時間×8 人×3 回 自立支援活動：950 円×2 時間×8 人×10 回 体力測定準備・開催：950 円×6 時間×10 人×5 回	(482,600 円)
提案者が負担する 無償機材等	情報通信機器 (WiFi-AP) 2 台 100,000 円 タブレット PC 6 台 240,000 円 活動量計 80 台 360,000 円	(700,000 円)
合 計（無償分を含めない）		1,350,000 円
無償分を含めた合計額		(2,532,600)

年間事業スケジュール

実施予定日	活 動 内 容	必要経費	参加人数
平成 30 年 4 月～5 月	<u>市報、チラシ作成準備、掲載・配布（健康講座用）</u> <u>データ通信機器更新業務</u>	80,000 円 100,000 円	スタッフ 2 名
6 月	<u>6 月健康講座※¹</u> ・脳と身体に効く上手なたんぱく質の取り方 ・メタボ予防のための運動処方 <u>市報掲載、チラシ配布（デジサポ用）</u>	60,000 円 45,000 円	住民 60 名 スタッフ 2 名 講師 2 名 スタッフ 4 名
7 月	<u>7 月健康講座※¹</u> ・ロコモ予防のための筋力トレーニング ・脳の健康維持のための運動活動 <u>市報掲載、チラシ配布（デジサポ用）</u>	60,000 円 45,000 円	住民 60 名 スタッフ 2 名 講師 2 名 スタッフ 2 名
8 月	<u>測定会（体力・体組成・血圧測定他）※²</u> <u>デジサポ入会申込</u>	240,000 円	住民 60 名 スタッフ 10 名
9 月	<u>健康デジタルサポート（セミナー）※³</u> 第 1 回「歩数計データをネットで見てみよう」	60,000 円	住民 60 名 スタッフ 2 名
10 月	第 2 回「歩数計データを参加者と共有しよう」	60,000 円	講師 4 名
11 月	第 3 回「ネットで目標を設定してみよう」	60,000 円	
12 月～ 平成 30 年 2 月	<u>健康デジタルサポート（自立活動支援）</u> <u>体験運動教室の開催（全 3 回）※⁴</u>	80,000 円 180,000 円	住民 60 名 スタッフ 2 名 住民 60 名 スタッフ 2 名 講師 4 名
2 月	<u>測定会（体組成・血圧測定他）</u>	40,000 円	住民 60 名 スタッフ 2 名
3 月	<u>修了式（更新手続き）</u>	40,000 円	住民 60 名 スタッフ 2 名

※1) 6月、7月健康講座

無料の健康講座を開講し身体運動の重要性について啓発する。講座内容は以下4題目を予定。講座の中で、健康デジタルサポート（9月から開催）の内容を紹介し参加者を募る。

「脳と身体に効く上手なたんぱく質の取り方」講師 齋藤史子（森永乳業株式会社）

「メタボ予防のための運動処方」講師 未定

「ロコモ予防のための筋力トレーニング」講師 棗寿喜（順天堂大学運動生理学研究室）

「脳の健康維持のための運動活動」講師 木村憲（東京電機大学）

※2) 8月、2月測定会

健康デジタルサポートの参加期間前後に体力、体組成その他測定を実施し、プログラムの効果を確認する。測定結果は全て参加者にフィードバックしプログラムに参加したことによる効果を確認する。8月の測定会は広く住民へ周知し一般参加も認め、これを入り口に健康デジタルサポートへの入会も勧める。

※3) 健康デジタルサポート（セミナー）

健康デジタルサポートでは、主に運動習慣のない地域高齢者の日常的身体活動（散歩、買い物、家事、その他）の増加を促す。参加者には、期間中、歩数計が貸与され、原則として就寝・入浴時以外は毎日欠かさずに歩数計の装着を依頼する。参加者は毎月一度の頻度で活動拠点に来訪し、セミナーの受講ならびに歩数計に記録されたデータの確認を行う。セミナー（1回/月）では、グループワーク（1グループ4名）形式に歩数計とタブレットPCとの通信とデータの視覚化の方法を演習し、身体活動に関する他者との情報共有ならびに目標設定の方法を学ぶ。全3回のセミナーを通じて、参加者がデータ通信を自立的に行い、自他の活動状況を確認することが可能となる。これにより、意欲的な身体活動と継続意識が生まれることが期待される。

※4) 体験運動教室の開催

健康デジタルサポート参加者へのサービスとして体験運動教室を開催する。異なる種目の運動教室を月1回（全3回）開講する。参加者の趣味趣向に応じて自由に教室を選択できる。運動体験をきっかけに新しい挑戦や生きがいづくりを支援し、仲間づくりの醸成を促進させる。現在、4種目（「ロコモ予防運動教室」、「ウォーキング教室」、「リズム体操/エアロビックダンス教室」、「ストレッチ運動/入門ヨガ教室」）の体験運動教室の開催を企画中。

その他) 健康管理システムソフトウェアの導入

参加者の体力や体組成（肥満度）などの各種測定データを一括管理し帳票を出力するソフトウェアを導入する。参加者は、測定会終了直後に自身の体力、肥満度ならびに血圧などの帳票を確認することができる。標準値との比較やデータ履歴の変動をグラフで分かり易く表示。身体機能・組成データを視覚化することで生活習慣の見直しや運動習慣の動機付けに繋がることが期待される。

(提案書 様式①-2)の

協働の機会提案書(継続提案用)

平成29年9月25日

印西市長 板倉 正直 様

(登録者) 登録番号 20-001

名 称 NPO 法人 エコネットちば

所在地 印西市竹袋72

代表者職氏名 理事長 齊藤 敏男 ㊞

連絡先 0476-42-4741

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業
現状・課題 (前年度の実施を踏まえた課題)	季節の花咲くひょうたん島池(竹袋調整池)広場は、お花見、癒しの散策、健康増進のウォーキング、高齢者介護施設の散歩コースにと、訪れる人々が年ごとに増加している。秋のコスモスふれあいまつりは、地域の恒例行事として定着、市民団体の発表やゲームで、秋の一日を楽しむコミュニケーションの場となっている。
提案理由	市の水生公園構想により整備された竹袋調整池と周辺地域は、景観に恵まれ、四季の花、飛来する野鳥など、豊かな自然を楽しめる市民の憩い場であり、多くの市民に愛されている。この景観と環境を保全するため、継続した維持管理が必要である。
提案内容 (前年度の実施を踏まえた改善内容)	花畑と遊歩道沿いに、四季の花植え、緑地の維持、植栽管理、ごみ清掃を実施して、豊かな景観維持と快適な環境保全。 1. 花畑の整備 2. 定期的な草刈 3. 日常随時のごみ清掃
貴団体の特性、協働で実施するメリット	エコネットちばは地元で活動するNPOで、地域住民・地元町内会・商店会・学校や他市民活動団体とも協力して、花畑づくりや地域まつり(コスモスふれあいまつり)を実施してきた。この地域の維持管理を行政との協働事業で実施することで、住民の期待と関心がたかまる。
継続実施により得られる効果 (自由提案型は今後の展望も記入)	協働事業に提案、9年目を実施中である。継続経験することで花畑の整備も充実してきた。訪れる人々から感謝や応援の声とともに要望意見も参考にして工夫できる。今後はひょうたん島池広場を、誰もが楽しみ、癒され、健康増進に利用できる場として提供していきたい。

(提案書 様式②)

協働事業計画書			
事業名	竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業		
事業の目的	竹袋調整池と周辺地域は景観に恵まれて、市民に愛され憩いの場となっている。この素晴らしい環境を保全するため継続した維持管理を行う。		
市の施策上の位置付け及び協働部署	(施策名) 緑と調和した生活空間の形成と活用 (部署名) 都市整備課		
事業期間	平成 30年 4月 1日 ～ 平成 31年 3月 31日		
事業の内容 詳細に役割分担別に記入 (役割分担を、できれば事前に市の担当に相談して記すか、希望を記す)	提案者	市	
	○定期的な草刈り ○花畑の整備 ○樹木の管理 ○日常随時のごみ清掃 ○放流口のごみ除去	○維持管理の相談・協議 ○植栽管理の指導・助言 ○花の種の提供	
事業に要する経費 ※詳細については、様式③による	30,000円	3,065,000円	
事業の運営体制 (事業関係者、協力者、有資格者など)	農業機械操作・造園作業に精通した会員を指導員として、会員15名とボランティアの協力体制で維持管理する。		
協働のメリット (各立場によつての効果を簡潔に)	提案者	市民	市
	水辺の維持管理で地域の環境保全ができ、市民に憩いの場を提供できる。ふれあいのまちづくりへ展開できる。	年間通してきれいな水辺を、憩いの場・健康増進の場として利用でき、地域住民と交流の機会が広がる。	市民に愛される魅力ある地域拠点ができ、市民サービスが向上する。更に、維持管理経費が削減できる。
対話方法 市との協議や打ち合わせ方法	定期的な計画事業の活動報告を行うとともに、随時・異常気象時の巡回報告・協議で安全確保と環境保全に努める。		
事業の周知や評価の方法	市広報、市HPやケーブルテレビ、地域ミニコミ誌等への情報提供、HPや現地掲示板による案内。来場者からの意見・感想聴取。		
備考	関係団体等 木下南口商工会、地域町内会、学校、地域活動団体他		
	その他(添付書類等) 竹袋調整池関係図 年間スケジュール(H29年度版)		

(提案書 様式④)

年間事業スケジュール

実施予定日	活 動 内 容	必要経費	参加人数
4月中旬	傷害保険契約	20万円	15名
5月上旬	草刈り作業(1回目)	17万円	10名
6月上旬	草刈り作業(2回目)	15万円	10名
6月上旬	施肥	7万円	5名
6月中旬	耕運	11万円	10名
6月中旬	苗植え	15万円	15名
7月上旬	草刈り作業(3回目)	18万円	10名
7月上旬	施肥	7万円	5名
7月上旬	花畑消毒	4.5万円	5名
8月上旬	草刈り作業(4回目)	17万円	10名
8月上旬	施肥	7万円	5名
8月上旬	耕運	5.5万円	10名
8月上旬	種蒔	4万円	5名
8月上旬	花畑消毒	4.5万円	5名
9月上旬	草刈り作業(5回目)	18万円	10名
9月中旬	施肥	7万円	5名
10月上旬	水生植物除去	20万円	10名
10月上旬	草刈り作業(6回目)	15万円	10名
10月上旬	花畑消毒	4.5万円	5名
10月上旬	施肥	7万円	5名
10月上旬	コスモスふれあいまつり」		20名
10月下旬	耕運	11万円	10名
11月上旬	種蒔	4万円	5名
11月上旬	草刈り作業(7回目)	15万円	10名
11月上旬	施肥	7万円	10名
11月上旬	耕運	5.5万円	10名
11月中旬	苗植え	15万円	15名
年間	植栽管理	25万円	10名
年間	看板類作成設置	3万円	5名
	合計	309.5万円	

企画提案型協働事業経費内訳書

総事業費(無償分を含む)

金 4,852,800 円

市から団体への委託費

(金 3,065,000 円)

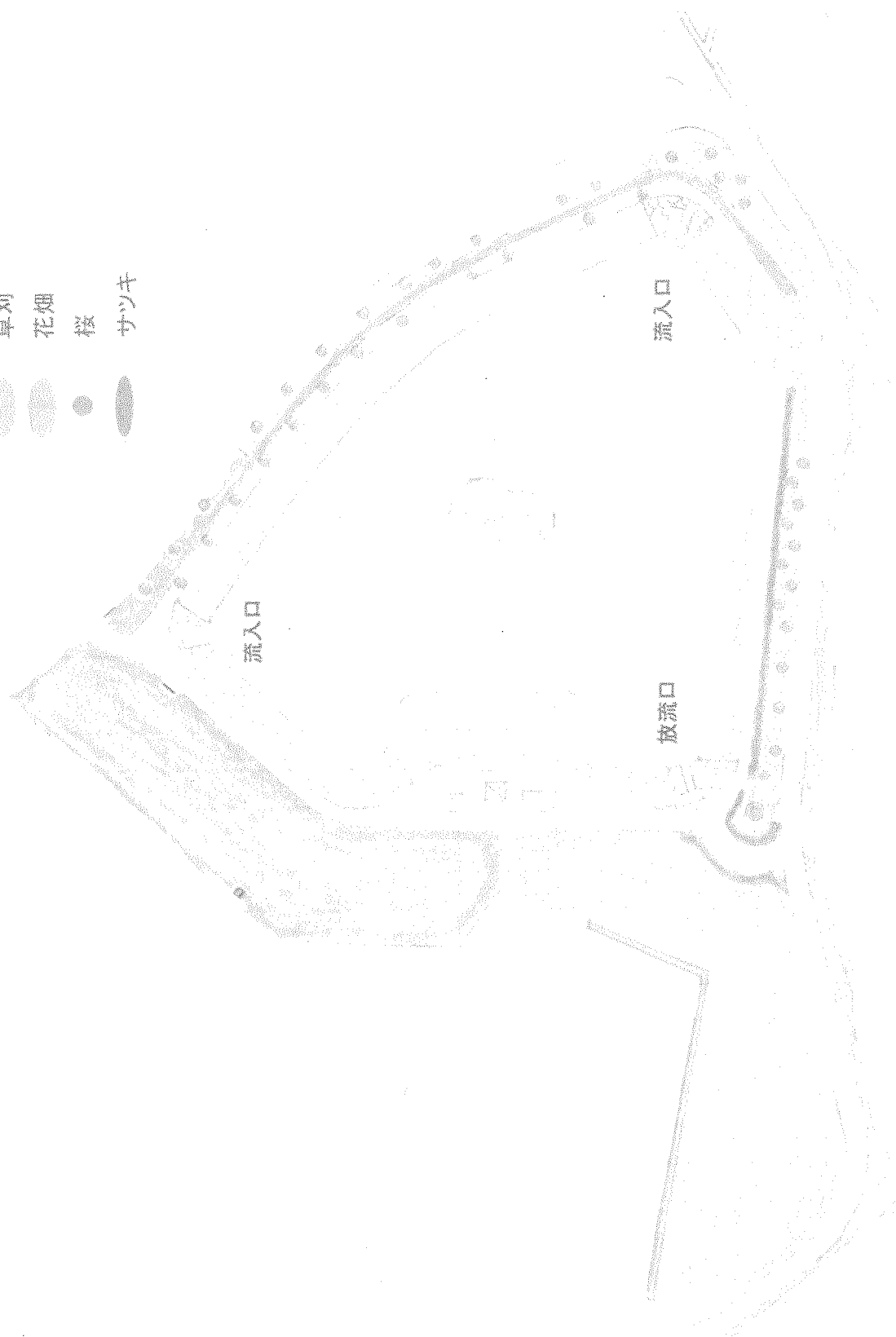
【歳入】

項 目	積算根拠(内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
市に負担を求める額		3,065,000
その他収入		
提案者負担分		30,000
無償労働力等換算金額	労働力 1,599,800円、機材 158,000円	(1,757,800)
合 計(無償分を含めない)		3,095,000
無償分を含めた合計額		(4,852,800)

【歳出】

項 目	積算根拠(内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
作業費	草刈(機械) 面積10,000㎡ 7回×150,000円/回 1,050,000 草刈(手刈) 面積 150㎡ 2回×20,000円/回 40,000 草刈(ひょうたん島)面積 300㎡ 2回×30,000円/回 60,000 耕運(花畑) 面積3,700㎡ 6回×55,000円/回 330,000 施肥(花畑) 面積3,700㎡ 6回×70,000円/回 420,000 消毒(花畑) 面積3,700㎡ 3回×45,000円/回 135,000 植栽管理(桜40本、サツキ150㎡) 250,000円/年 250,000 水生植物除去 面積 200㎡ 1回×200,000円/回 200,000 苗植(花畑) 面積 2,200㎡ 2回×150,000円/回 300,000 種蒔(花畑) 面積 2,200㎡ 2回×40,000円/回 80,000	
保険料	損害保険 200,000円	200,000
提案者が負担する 無償労働力	842円×1,900時間=1,599,800円 (草刈 7日、苗種植栽8日、除草 20日、散水15日、 放流口浮遊物除去20日、地域清掃 48日)	(1,599,800)
提案者が負担する 無償機材等	草刈機(肩掛) 3,000円/回×6台×7日=126,000円 管理機(除草) 4,000円/回×1台×8日=32,000円	(158,000)
提案者が負担する その他の材料費	案内看板材料等一式 30,000円	30,000
合 計(無償分を含めない)		3,095,000
無償分を含めた合計額		(4,852,800)

- 草刈
- 花畑
- 桜
- サツキ



平成29年度企画提案型協働事業「竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業計画」計画（計画）実施

YPO法人 日本労働会館

[illegible]

(提案書 様式①)

協働の機会提案書 (継続用)	
2017年9月25日	
印西市長 板倉 正直 様	
(登録者) 登録番号 23-004	
名 称 木下まち育て塾	
所在地 印西市木下	
代表者・会長 伊藤 哲之	
連絡先	
企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。	
提案事業名	印西市木下地区歴史講座
現状・課題 (前年度の実施を踏まえた課題)	(1)「寺子屋吉岡」は、平成23年10月30日に開講した市民向け歴史講座である。また、木下の歴史を学ぶと共に完全リニューアルなった吉岡家土蔵(明治24年建築)という、木下の歴史を今に伝える歴史的建造物の保存・活用の一環でもある。平成24年度より印西市との協働事業となり、この間、100名以上の卒業生を送り出してきた。更には広く市民向け歴史講演会、バスツアー等を併せて開催し、千葉NT新住民をはじめとする市民の故郷意識の醸成に努めてきた。とりわけ近年の講演会、ツアーは極めて盛況であり、この中には少なからず卒業生が含まれている。 (2)今回は、平成29年度事業と同様に吉岡まちかど博物館にての学びと併せて、吉岡まちかど博物館という歴史的建造物の積極的活用を意図する。 (3)平成29年度4月以降、木下街道沿道の印西市、白井市、鎌ヶ谷市、市川市の各博物館学芸員の方を講師として招き、市内外からの16名の受講生は良く学んでいる。更に夏には交通史学会の山本会長による夏期特別市民講座を開催し80余名の市民で会場は満員となり、大変好評であった。今年度後半には座学の他、行徳航路体感クルーズ、木下街道巡見を予定しているところである。 (4)平成29年度は、当初の計画に挙げなかったが、ラーバンネットとの協働により、全講義を収録し、毎月2回、千葉NTの新住民に向けケーブルテレビ受信世帯12000軒に放映している。また、講義を収録したCD-ROMは講師関係の各博物館にももれなく配布しており、各博物館でも視聴が可能となっている。ラーバンネットの協働による放映は貴重な講義をこれまで課題であった吉岡まちかど博物館という物理的制約を取り払い、市民は居ながらにして木下街道の歴史を学ぶことが出来ることとなった。これは平成30年度も継続する。 (5)微力とは言え、印西市の基本計画にある「地域のもつ可能性を活かした魅力あるまちをつくる」及び「健やかな心と体を育み未来を拓く、まちをつくる」に対し、当塾及び印西市が継続して行う必要性が一層求められている。
提案理由	(1)明治14年の次の新聞記事は当時の木下の占める位置が判明する興味深いものである。「(前略)茨城県其他銚子小見川近邊の人は必ず前日汽船に乗り(利根川通ひの川蒸氣船十艘余あり木下へ大概上陸)其夜木下へ上陸所へ一泊して翌日歩行すること七里にして行徳新宿より亦々汽船に乗り其日太陽ある中に出京するを得(後略)」『千葉公報』明治14年4月19日)と述べ、利根川水運全盛期のこの時期、木下が下利根川並びに霞ヶ浦及び北浦沿岸諸都市と東京を結ぶ交通結節点であり、行き交う人々が多かった木下及び木下街道の繁昌振りをよく伝えている。 (2)上記記事は、木下の歴史を理解するには利根川と江戸川を繋ぐ連水陸路たる木下街道、下利根川水運の歴史を学ぶ必要性を示唆している。木下の性格は純粋交通集落であり、街道と水運により諸都市と繋がることにより生業をたててきたという大きな特色がある。 (3)今回は、平成29年度に引き続き、上記により木下河岸の歴史を市外から見ることで、木下への新たな視点を得るべく市民と共に木下河岸から江戸・東京への道、木下街道及び行徳航路へと視野を拡げ、一層、地元木下を中心とする印西の理解を得ることを意図する。

提案内容 (前年度の実施を踏まえた改善内容)	寺子屋吉岡は、この間、地元、利根川水運の要衝、木下を中心に学んできた。今回も平成 29 年度に引き続き、木下について更なる理解を深めるべく、木下街道及び行徳航路に焦点をあて「木下河岸から小網町行徳河岸へー市民と学ぶ江戸・東京への道、木下街道ー」と題し ①沿道、沿川関係 8 市区（印西市、白井市、鎌ヶ谷市、船橋市、市川市、江戸川区、江東区、中央区）の学芸員又は研究者の方々から吉岡まちかど博物館にて木下街道、行徳航路について学び、木下、木下街道への理解を深める。 ②木下街道、行徳航路に係る講演会を広く市民向けに開催する、又は行徳航路を体感するために市民と共に乗船体験等を行う。 ③沿道、沿川の博物館を訪問し、更に理解を深め、博物館ボランティア市民団体と交流する。（平成 29 年度は市川、船橋、鎌ヶ谷、白井、印西市の市民団体等と木下街道を巡見する際に案内等を通じ交流する予定である） ④ラーバンネットと協働し、千葉NT新住民に向け、放映し、故郷意識醸成に寄与させる。 ⑤寺子屋卒業生、受講者、木下まち育て塾及び印西市と共催により、平成 31 年度を目前に企画展「市民による木下街道展（仮称）」の開催を意図し、埋もれた歴史に光をあてる市民を育成し、生涯学習のきっかけを提供する。資料集、図録の刊行も視野に入れる。以上から印西市の生涯学習機能を補完する。
貴団体の特性、協働で実施するメリット	(1) 木下まち育て塾は「志民」の集まりである。「志民」とは「文句ばかり言つて何もしない「私民」でもなく、カヤの外で知らないふりをし続ける「死民」でもなく、自己責任で地域に積極的に働きかけ、自らも負担するココロザシある「志民」。そうした志民を集積していくことこそ、次世代へ地域の輝きを残していく方法だ」（「志民連いのみや」）に拠っている。 木下まち育て塾は、江戸期から明治期にかけ利根川水運で繁栄した木下河岸を中心に、今ではやや元気がない、印西市の中心市街地である木下・六軒を「何とか元気にしたい」を掲げ、具体的には ①往時の面影を今に伝える蔵・町屋の保存と活用 ②地域への愛着と誇りを醸成する歴史の調査・研究、掘起こし ③活性化へ繋ぐ市民ウォーク、市民公開講座等イベントの開催等を行っている 30 代から 70 代のサラリーマン、主婦等多様な市民からなる平成 15 年 3 月に結成したまちづくり市民団体である。前身は平成 13 年 10 月、印西市主催の「木下まち育て塾」。14 年 8 月の解散後、有志が「志」と「名」を継承した。当塾のこれまでの実績は木下河岸の歴史紹介を兼ねた『吉岡まちかど博物館開館 10 周年記念誌』（平成 26 年）、吉岡まちかど博物館の改修の技術史ともいえる『蔵 吉岡まちかど博物館 10 年史 2004～2014』（平成 27 年）を参照されたい。 (2) 協働のメリットとして、印西市という行政のみでは発想、行動に限界があるが、木下まち育て塾という多様な市民からなる市民団体との協働により、より大きな成果が得られる。現に 5 市 3 区の博物館学芸員と交渉し、本企画実現し、更には当初計画には実現が危ぶまれたラーバンネットという民間企業との協働を一市民団体が実現させたことは特筆できると思料。一方、木下まち育て塾は、一弱小市民団体であり、今回の如く多数の公共団体と連携するイベントの円滑な開催は困難である。印西市との協働はその点を大きく補完し、円滑に企画が実施でき、市民にもメリットがある。
継続実施により得られる効果及び今後の展望	木下が鉾田、小川等茨城県の霞ヶ浦及び北浦縁並びに銚子及び佐原等下利根川の諸都市から東京への交通結節点であったことなど現在では想像すら困難である。街道と水運で繋がる木下を理解するにはこれらを総合的に学ぶ必要がある。これらを学ぶことにより木下、木下河岸へ新たな光を当てることができ、一層の理解が深まるものと思料する。今回は、先ず木下に繋がる木下街道、行徳航路を体系的に学ぶこととする。 将来的には今回提案の木下街道から更に、水運で繋がる木下に焦点を当て、霞ヶ浦、北浦縁の茨城県及び佐原、銚子等千葉県の諸都市との繋がりの中から木下、木下河岸を学んでいく構想を温めていきたい。 上記企画は木下街道、行徳航路、下利根川、霞ヶ浦水運の歴史を学ぶだけではなく、これら諸都市の市民、市民団体との交流、更にはこれらの学習を契機に木下、木下河岸の歴史を研究する市民のきっかけともなるものである。まちづくりは居住地への愛着と誇りなくしてはなしえないものであり、愛着と誇りは先ず地域の、先人の歴史を知ることである。今回の企画提案により上記の実現に寄与したいと考える。 5 市 3 区との今回の連携により、当塾の活動を知った市川の歴史博物館友の会一行が 9 月の木下に来館し、手賀沼乗船、吉岡まちかど博物館来館、地元飲食店での食事、木下交流の村歴史資料センター訪問等、小さな市民団体の活動が契機となり、地域の活性化に微力ながら寄与していると思料する。

(提案書 様式①)

協働事業計画書		
事業名	印西市木下地区歴史講座	
事業の目的	①木下は、江戸期から明治期にかけ、木下街道という「道」、利根川という「川」に繋がることにより繁栄した都市である。今回は、多彩な講師陣から木下街道及び行徳航路を体系的に学び、木下への理解を一層深め、市民のふるさと意識醸成等に寄与させる。 ②受講生（市民）に体系的に学ぶ機会を提供し、調査研究等、生涯学習へのモチベーションを高める。 ③沿道、沿川関係市区の博物館を訪問し、改めて学芸員から実際の展示物等と通して学ぶこととする。	
市の施策の位置付け及び協働部署	（施策名）文化財の保護・活用 （部署名）生涯学習課	
事業期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日	
事業の内容	提案者	市
	○講師出講依頼調整（9名） ○木下街道、行徳航路に係る情報収集（資・史料収集、博物館下見等） ○講座開催（8回・各回10名） ○特別講座開催（1回） ・夏期市民歴史講演会（60名） ○行徳航路体感乗船イベント・博物館2館訪問（40名） ○博物館4館巡り（40名） ○ラーバンネットとの調整 ○見学会等資料作成 ○他団体との協議・調整	○関係市役所及び区役所への講座開催の支援 ○特別講座開催（夏期講座、行徳航路体験乗船）の支援 ○公民館等会議室の確保 ○市の広報手配 ○博物館訪問等における市のバスの手配
事業に要する経費 ※詳細については、様式③による	24,000 円	510,400 円
事業の運営体制	①塾生2名を主担当に、会長以下10名程度により運営する。 ②講師は関係市区の博物館学芸員又は研究者とする。 ③印西市生涯学習課と密接な連携体制をとる。	

	提案者	市 民	市
協働のメリット	①印西市との協働により関係市区からの信頼性が増し、企画内容の実現性が高まる。 ②活動を市内外の市民等にアピールできる。 ③吉岡まちかど博物館という歴史的建造物の保存・活用に寄与できる。 ④木下街道等の調査研究への機運が醸成できる。 ⑤ラーバンネットとの協働により、広範な千葉NT新住民に講座を提供でき、故郷意識の寄与できる。	① 沿道、沿川市区の学芸員等から直接学ぶことができる。また、ラーバンネットによる放映により、居ながらにして学習できることとなる。 ②地元、木下、木下街道への理解が深まり故郷意識が醸成される。 ③木下河岸、木下街道等への市民による調査・研究意識が醸成される。また、生涯学習のきっかけとなる。	①市民団体の活用により、市民へよりよい企画が提供できる。 ②木下街道、行徳航路をとりあげることににより、市民に木下への理解を一層深めさせることができる。 ③提案者がラーバンネットと協働することにより、広範な市民に講座を提供でき、講座の本来目的である新住民への故郷意識醸成に寄与できることとなる。
対話方法	市への月度活動報告、随時情報交換		
事業の周知や評価の方法	①印西市の広報、ラーバンネットによる放映、ミニコミ誌、チラシ、ポスター、ホームページ。 ②参加者へのアンケートによる。		
備 考	関係団体等：ラーバンネット、観光協会、印西ふるさと案内人協会 各博物館及び各ボランティア団体		
	その他（添付書類等）「寺子屋吉岡」・チラシ		

(提案書 様式③)

企画提案型協働事業経費内訳書

総事業費（無償分を含む） 金 1,602,400 円

市から団体への委託費 （金 510,400 円）

【歳入】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
市に負担を求める額	人件費、交通費、報償費、印刷製本費、通信運搬費、保険料	510,400
提案者負担分	会場費	24,000
参加者負担分	資料代	78,000
無償労働力等 換算金額	労働力 1,010,000 円	(990,000)
合 計（無償分を 含めない）		612,400
無償分を含めた 合計額		(1,602,400)

【歳出】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
人件費＊	1. 月例講座運営 4 時間×900 円×8 日×2 名＝57,600 円 2. 夏期特別講座 4 時間×900 円×1 日×5 名＝18,000 円 3. 4 博物館訪問 8 時間×900 円×2 日×3 名＝43,200 円 4. 行徳航路体験（日本橋利根川等乗船体験） 8 時間×900 円×2 日×3 名＝43,200 円 5. ラーバンネット 4 時間×900 円×10 日×2 名＝72,000 円	234,000
報償費等＊	1. 講師謝礼（3 人分） 10,000 円×3 回＝30,000 円 2. 講師交通費 7 人分（除印西市） 13,000 円 3. 夏期講座謝礼（1 人分） 30,00 円×1 回＝30,000 円 4. 講師交通費 1,800 円 5. 講師食糧費（9 人分） 700 円×9 人＝6,300 円	81,000
交通費＊	1. 講師訪問交渉（印西市を除く 4 市 3 区+夏期講座講師） 1 名分 1 回 起終点は木下駅とし、同駅から各博物館迄とする。以	58,500

	下同じ。 ①12,900 円×1 名×1 回=12,900 円 ②1800 円×1 名×1 回=1800 円 2. 行徳航路乗船体験・博物館訪問 下見・引率 (3 人分、2 回) 2,833 円×3 名×2 回=16,998 円 ≒17,000 円 日本橋からの乗船体験後、行徳河岸、中川船番所資料館、江戸川区郷土資料室見学 3.4 博物館訪問 4,466 円×3 名×2 回=26796 円 ≒26,800 円 合計 58,500 円	
印刷製本費＊	1. A4 告知チラシ 500 部×2 回×40 円=40,000 円 2. A3 告知ポスター 50 部×2 回×300 円=30,000 円 3.A4 寺子屋吉岡講座案内チラシ 2,000 部×1 回×20 円=40,000 円	110,000
資料作成費	1. 定期講座 500 円/部×12×8 回=48,000 円 2. 特別講座 300 円/部×60 人=18,000 円 3. 行徳航路 300 円/部×40 人=12,000 円	78,000
通信・運搬費＊	1. 講師連絡@140 円×9 人×2 回=2,500 円 2. 受講生連絡@140 円×12 名×2 回=3,360 円 計 5,900 円	5,900
保険料＊	1. 定期講座：1,000 円×9 回=9000 円 2. 行徳航路体験 (日本橋川等乗船) 250 円×40 人×1 回=10,000 円 3.4 博物館巡り 50 円×40 人×1 回=2000 円	21,000
会場費 (電気代他)	会場費 2,000 円×12 回=24,000 円	24,000
提案者が負担する 無償労働力	4 時間×900 円×55 日×5 名=990,000 円 企画立案、企画書作成、講師交渉 (9 名)、情報収集、現地調査、資料収集、調査、資料作成、定期講座受講生連絡、行徳乗船体験の募集案内・受付。ミニコミ誌等広報依頼等事業実施に伴う一式	(990,000)
合 計 (無償分を含 めない)		612,400
無償分を含めた 合計額		(1,602,400)

＊印は市に負担を求める項目

(提案書 様式④)

年間事業スケジュール

実施予定日	活動内容	必要経費 (円)	参加人数
4月下旬	印西市学芸員講義・博物館見学	152,200	12名
5月下旬	白井市学芸員講義	39,500	12名
6月下旬	鎌ヶ谷市学芸員講義	28,400	12名
7月下旬	船橋市学芸員講義	28,800	12名
8月上旬	夏期市民歴史講座（講師未定）	58,100	60名
9月下旬	市川市学芸員講義	28,900	12名
10月下旬	江戸川区学芸員講義	39,400	12名
11月上旬	乗船体験・博物館見学	36,600	30名
11月下旬	深川東京モダン館学芸員講義	39,700	12名
12月下旬	中央区京橋図書館司書講義	29,300	12名
3月下旬	博物館見学（4館）	28,500	20名
	合計	510,400	延べ206名

註：印刷費、交通費の一部、保険料及び通信費は講座開始月に計上した。

協働の機会提案書(新規提案用)

平成 29 年 9 月 25 日

印西市長

様

(登録者) 登録番号 29 —002

名 称 印西防災研究会

所在地 印西市武西学園台

代表者職氏名 会長 向井地純一

㊞

連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	自主防災組織運営の知識の啓蒙・普及事業
現状・課題 (指定テーマ型の場合はテーマ名のみ記入)	今後 30 年以内に、震度 6 以上の大地震に見舞われる確率は、千葉県は 80%と予測されている。また、地球温暖化の影響もあってか、洪水、土砂災害などの災害も多発している。防災対策は、「自助」「共助」「公助」の有機的一体化が基本であり、「共助」の中核は自主防災組織である。 印西市の自主防災組織の結成率は約 50%であり、千葉県の 58%、全国の 77%から見ても、かなり低率となっている。また、自主防災組織の役員は、町内会等の役員が兼務するところが多く、毎年交代で、高齢化も目立つ。加えて、構成員の防災研修は不十分であり、また、自主防災組織間の情報交換・相互啓発もほとんど行われていない。 今後、自主防災組織の活性化対策として、自主防災組織の構成員に対し、自主防災組織運営の知識の啓蒙・普及が喫緊の課題となっている。
提案理由	自主防災組織が活発に活動できるように、市防災課と協働で、自主防災組織の構成員に対し、自主防災組織運営の知識を啓蒙・普及する。
提案内容 (予算の概算も記入)	平成 29 年3月に作成した 6 種類のわかりやすい防災マニュアルを活用し、印西市の自主防災組織の構成員に対し、研修会等を通じ、防災知識の啓蒙・普及に取り組む。 <6 種類のわかりやすい防災マニュアル(初版)> ①自主防災組織運営の基本 ②自主防災組織活動マニュアル(中高層マンション編) ③防災訓練モデル ④防災倉庫備蓄品標準モデル ⑤印西市避難者行動要支援者マニュアル<要旨> ⑥避難所運営マニュアル

	<研修会対象> ①印西市自主防災組織 対象 90ヶ所 研修会等の必要性について、アンケート等により事前に意見聴取し、研修先を絞り込む。 ②印西市自主防災組織研修会(市防災課主催)、自治会連合会、社会福祉協議会、公民館主催の研修会など、市防災課の知恵を借り、マニュアルの啓蒙・普及に取り組む。 必要経費は、約 20 万円程度見込んでいる。
貴団体の特性、協働で実施するメリット (提案者が事業実施できる能力や有利なアピールポイント)	印西防災研究会は、平成 27 年 4 月に市民アカデミー16 期生の有志 11 名で立ち上げ、昨年は、千葉銀行まちづくりファンドの助成を受け、6 種類のわかりやすい防災マニュアルを作成した。また、千葉県の災害対策コーディネーターの資格を 3 名取得した。 現在、会員は 9 名であるが、これまでの防災学習、防災研修受講、防災訓練への参加等の準備を重ねてきており、市防災課と協働で、自主防災組織の構成員に対し、自主防災組織運営の知識の啓蒙・普及に取り組むことができる。
事業実施により得られる効果 (自由提案型は今後の展望も記入)	市防災課との協働による自主防災組織運営の知識の啓蒙・普及は、既自主防災組織構成員のレベルアップに繋がり、自主防災組織の活性化に役立つ。 今後の展望として、初年度の取り組みを見て、 ①各自主防災組織を横断的につなぐ「印西市自主防災組織連合会」の新規立ち上げ ②自主防災組織未設置の解消推進(印西市の中期計画では、自主防災組織の結成率を約 50%から 10%アップの 60%にするとしている。) に取り組む。

協働事業計画書		
事業名	自主防災組織運営の知識の啓蒙・普及事業	
事業の目的	自主防災組織が活発に活動できるように、市防災課と協働で、自主防災組織の構成員に対し、印西防災研究会策定の「6種類のわかりやすい防災マニュアル」を利活用し、自主防災組織運営の知識を啓蒙・普及する。	
市の施策上の位置付け及び協働部署	(施策名) 多様化する災害に対応する、自助共助も含めた防災対策の強化 (部署名) 防災課	
事業期間	平成30年 4月 1日 ～ 平成31年 3月31日	
事業の内容 詳細に役割分担別に記入 (役割分担を、できれば事前に市の担当に相談して 記すか、希望を記す)	提案者	市
	①自主防災組織における自己診断を基本とした「防災マニュアル」の利活用 ・自主防災組織の「自己診断点検シート」の策定、全自主防災組織への送付、回収。送付に当たっては、「わかりやすい自主防災組織マニュアル」「自主防災組織運営の基本」合わせて送付。 ・回収した「自己診断点検シート」を分析・整理し、その結果のグルーピングを通じて対応策を検討。その内容については、再度、全自主防災組織へ送付。 ・対応策に従い、次の事を実施する。 - 自主防災組織の現地訪問ヒアリング - 防災マニュアルの研修会、説明会の開催 - 研修会、説明会用のコンパクトマニュアルの策定 - 対応策についての外部有識者からの意見聴取 ②関係団体からの「防災マニュアル」の利活用についての意見聴取 ・防災課主催の自主防災組織研修会、社会福祉協議会、公民館等からの意見聴取	・「自己診断点検シート」の策定、送付、回収・整理、対応策の検討についての指導 ・研修や説明会用の機材の貸与(例えば、プロジェクター) ・関係団体選定のアドバイス ・外部有識者の紹介

事業に要する 経 費 ※詳細については、様式③による	18,000 円	221,900 円	
事業の運営体制 (事業関係者、協力者、有資格者など)	印西防災研究会 9 名（うち、千葉県災害対策コーディネーター 3 名） なお、印西市在住の千葉県災害対策コーディネーター（14 名）に印西防災研究会への参加を勧誘する。		
協働のメリット (各立場にとっての効果を簡潔に)	提案者	市 民	市
	防災課との協働により、防災マニュアルの啓蒙・普及が円滑に進められる。	防災マニュアルの啓蒙・普及により、自主防災組織構成員のレベルアップに繋がり、自主防災組織の活性化に役立つ。	印西防災研究会との協働により、自主防災組織の活性化を効率的に図ることができる。
対話方法 市との協議や打ち合わせ方法	毎月末に防災課へ事業の進捗状況及び実績を報告。また、メール等で随時情報交換を行う。		
事業の周知や評価の方法 (具体的な目標値など)	自主防災組織に取り組み状況等を連絡すると共に、市広報誌やHPで取り組み状況を周知する。		
備 考	関係団体等		
	その他（添付書類等）		

企画提案型協働事業経費内訳書

総事業費（無償分を含む） 金 779,900円市から団体への委託費 （金 221,900円）

【歳入】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
市に負担を求める額		221,900
その他収入		
提案者負担分	年会費 2,000/人 x 9 人	18,000
無償労働力等換算金額	労働力 540,000円	(540,000)
合 計（無償分を含めない）		239,900
無償分を含めた合計額		(779,900)

【歳出】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
報償費	外部有識者謝礼 2 回 x 2 人 x 7,500円/回	30,000
旅費・交通費	自主防災組織訪問(10回)、関係団体訪問(5回) 研修会・説明会(5回) 2,000円/月9人 x 20回	40,000
消耗品費	プリンターインク代 1,000 円/本 x 3 本 x 9 人 用紙代 A4 500 枚/束 x 30 束、封筒代 400 枚等	40,000
印刷製本費	コピー代 50 円/製版 x 200 製版、印刷費18,000枚、 コンパクトマニュアル製本代(90か所)	43,000
通信運搬費	郵便等郵送料（初回250円＋返信120円＋第2回 140円）x90か所、わかりやすいマニュアル380円x50 か所 電話料・FAX・ネット通信費 2,000 円/月 x 5 か月	74,900
使用料、賃貸料	1,000 円/月2時間 x 12 か月	12,000
提案者が負担する 無償労働力	1,000円/h x 60 時間 x 9 人(点検シート作成、分 析・整理、対応策策定、コンパクトマニュアル作成、研 修会・説明会対応等)	(540,000)
提案者が負担する 無償機材等		(0)
合 計（無償分を含めない）		239,900
無償分を含めた合計額		(779,900)

年間事業スケジュール

実施予定日	活動内容	必要経費	参加人数
30/4月～31/3月	・月次活動進捗検討会（12回）	12,000円	9名
30/4月上旬	・自主防災組織の「自己点検シート」の作成	26,000円 (90,000円)	9名
4月中旬	・「点検シート」を全自主防災組織へ送付。送付に当たっては、「自主防災組織運営の基本」「わかりやすい自主防災組織マニュアル」を合わせて送付（90か所）	22,500円	9名
5月末	・「点検シート」の回収（90か所）	10,800円	9名
6月中	・回収した「点検シート」の分析/整理	(90,000円)	9名
6月中	・分析/整理結果のグルーピングを通じて対応策を検討	25,000円 (90,000円)	9名
6月末	・「点検シート」の分析結果と対応策の検討結果を全自主防災組織へ送付（90か所）	12,600円	9名
5月～7月	・研修会/説明会用のコンパクトマニュアルの作成	32,000円 (90,000円)	9名
7月中	・対応策についての外部有識者、関係団体からの意見聴取	40,000円	9名
7月～8月	・自主防災組織（10回）関係団体（5回）の現地訪問ヒアリング	30,000円	9名
9月～31/3月	・防災マニュアルの研修会、説明会の開催（5回）	29,000円	9名
	・6種類のわかりやすい防災マニュアル送付（50か所）	(180,000円)	
	経費 小計	239,900円	
	()内小計は、提案者の無償労働力	(540,000円)	

印西市における自主防災組織設置状況

平成28年4月1日現在
印西防災研究会

地区	町内会等の数	自主防災組織 設置率(%)	自主防災組織 世帯数カバー率(%)
中央駅南	23	95.7	96.4
中央駅北	19	94.7	98.3
牧の原駅南	14	92.9	94.7
小林	9	77.8	96.4
木下	9	66.6	85.2
印旛	24	29.2	42.4
船穂	26	26.9	30.2
大森	16	25.0	34.1
本埜	23	17.3	37.4
永治	6	0.0	0.0
計	169	52.1 (88か所)	71.4 (22352総世帯)

「わかりやすい自主防災組織マニュアル (2017年3月初版)の特徴

- 1、「自主防災組織運営の基本」
 - 概論。戸建てにおける組織の編成と運営、規約、年間計画、財源・活動費、人材、活動内容等自主防災組織運営の基本について整理。
- 2、「自主防災組織活動マニュアル（中高層マンション編）」
 - 印西市のマンション世帯——15、700世帯 半分弱の比率
 - マンションの構造はいろいろあるが、エレベータの設置されている中高層マンション編
 - 在宅避難者を中心に整理
 - 東京都品川区「高層マンション防災対策の手続き」参考
- 3、「防災訓練モデル」
 - 特に「安否確認」に力点。各世帯ごとの構成員を把握、個人情報保護法の面からAさん、Bさん、Cさんでも可。
 - 印西市大森第一町内会・自主防災会の「防災訓練」参考
- 4、「防災倉庫備蓄標準モデル」
 - 自主防災組織と避難所における、備蓄品の標準モデルと在庫調査について整理
 - 自主防災組織は、一戸建て住宅において、①利根川地区 ②千葉ニュータウン地区、集合住宅において①千葉ニュータウン地区について整理
 - 避難所は、約400名3日分の生活必需品について整理
 - 印西市、千葉市、白井市、常広市、調布市、静岡県を参考
- 5、「印西市避難者行動要支援者マニュアル（要旨）」
 - 平成23年の印西市災害時要支援者マニュアルを要約。現在、印西市において見直し中。「災害時要支援者」→「避難者行動要支援者」に変更。
- 6、「避難所運営マニュアル」
 - 指定避難所を前提に整理。一時避難所、特別（福祉）避難所は除外。
 - ①市町村、当該施設責任者、町内会・自治会による事前協議を重視②避難所開設③避難所運営④避難所閉鎖について整理
 - 特に、仮設トイレ、災害時の聾啞者や外国人支援について整理
 - 印西市、岩手県、新潟市、仙台市、兵庫県、自治体国際化協会HP、明治安田こころの健康財団を参考

以上

(提案書 様式①-1)

協働の機会提案書(新規提案用)

29年9月25日

印西市長 板倉 正直 様

(登録者) 登録番号 28-004
 名称 里地里山保全ねっと
 所在地 印西市美瀬
 代表者職氏名 代表 高橋 幸治 印
 連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の整備事業
現状・課題 (指定テーマ型の場合はテーマ名のみ記入)	印西市には谷津田など豊かな里山環境が多く残っているが、農家の高齢化や後継者不足、また生活様式の変化により耕作放棄地が増加し、谷津田など耕作の難しい田を含め里山の荒廃が進んでいる。この里山環境の悪化が結果としてイノシシが住みやすい環境となり、獣害の発生元となっている。このまま放置すればイノシシはさらに増え、農作物の被害の増加だけでなく、住宅地への出没も頻繁になり、住民が怪我をするような事態も想像される。 さらに、里山の所有関係は複雑化し、境界もあいまいで、手入れの相談をしたくても所有者との連絡が困難な場合もある。
提案理由	イノシシ対策として「捕獲駆除」「防護柵」「生息環境の管理」を同時に実施することが効果的と言われている。印西市で行っている捕獲駆除と電気柵等の防護対策に加え、市民や所有者が共同で生息環境の管理を実施したい。耕作放棄地や隣接する里山等の整備保全活動を進め、イノシシが生息しづらい環境の整備を進めていく。そして、市民が谷津田をはじめ里山地域に親しみ、印西市の自然環境を満喫できるような農村環境づくりを行いたい。
提案内容 (予算の概算も記入)	いには野の美瀬地区の東側谷津田周辺にはイノシシが多く生息している。数年前からイノシシは生息していたが水田が境界線となっていた。しかし、ここ数年でほとんどが耕作放棄地となり大人の背丈より高い草が生い茂り荒れ放題となっている。しかも、そこに点在する放置竹林には、イノシシの好物のタケノコがあり絶好の餌場にもなっている。 このような荒廃の進んだ土地で整備が必要な区域を瀬戸・吉高地区からリストアップし、所有者と調整をしながら順次整備を行っていく。 活動予定としては、対象区域の範囲にもよるが、会員による整備活動は月4回、月の延人数20人程度を想定する。また、一般ボランティアを募集し体験型の整備活動も年2回程度行う予定である。

	必要経費は、環境整備用の刈払機やチェーンソーの機材関係費用、刈草や伐採竹の搬出処理費用、整備事業参加者の保険費用等であるが、事業の詳細を協議後調整させて頂きたい。
貴団体の特性、協働で実施するメリット (提案者が事業実施できる能力や有利なアピールポイント)	私たちは、いには野地区の住民を中心とした団体で、昨年から角田地区で竹林の整備に取り組んでいる。森林組合や林業の事業体、市内外の環境系団体で活動実績を持つメンバーもあり、今後は活動の規模と幅を拡大しようとしている団体である。 地域住民が中心となって不耕作地等整備等によるイノシシ対策を実施することにより、住民の環境意識の向上が期待できる。また対象農地・竹林の近隣の住民団体が実働することにより、市としては直接実施することが難しい個人所有地等の草刈りや周辺整備等の環境施策が行いやすくなると考えている。
事業実施により得られる効果 (自由提案型は今後の展望も記入)	不耕作地の周辺が整備されることで、イノシシが棲みづらい環境が作られ、イノシシの増加を防ぐことができる。それに伴いイノシシによる農作物への被害や住民とイノシシの遭遇機会を減らすことができると考えている またイノシシが棲みづらい環境は周辺部の景観改善にも繋がる。 今後は市民に谷津田等への親しみを持ってもらえるよう散策コースの整備や稲作体験のような環境教育も行っていきたい。 更に整備の際に出る材の有効活用方法についても検討していきたい。

協働事業計画書			
事業名	イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の整備事業		
事業の目的	住宅地に隣接した不耕作地に住み着いたイノシシ対策として不耕作地の整備を行い、住宅地との間に緩衝地帯を作る。 また、整備前後にイノシシの痕跡調査を行い、整備事業の効果検証を行う。		
市の施策上の位置付け及び協働部署	(施策名) 生産基盤の整備や担い手の確保による持続的な農業の実現 (部署名) 農政課		
事業期間	平成30年4月1日 ～ 平成31年3月31日		
事業の内容 詳細に役割分担別に記入 (役割分担を、できれば事前に市の担当に相談して記すか、希望を記す)	提案者	市	
	・整備対象地区の所有者との折衝 ・不耕作地の草刈と刈草の処理 ・整備地域周辺の未利用竹林の間伐及び枯竹伐材処理 ・整備地域側道の草刈り整備 ・ボランティアの募集・指導 ・イノシシの痕跡調査	・土地所有者との折衝補助(紹介・情報提供) ・事業遂行上のアドバイス	
事業に要する経費 ※詳細については、様式③による	14,000円		1,387,000円
事業の運営体制 (事業関係者、協力者、有資格者など)	林業事業体、農業、環境系団体で環境整備の経験を積んだ指導的会員と、昨年より竹林整備を体験している会員で作業を行い、いには野地区の住民にも整備作業を体験してもらう。労働安全衛生特別教育修了者3名		
協働のメリット (各立場にとっての効果を簡潔に)	提案者	市民	市
	不耕作地の改善がイノシシ対策に利用でき、地域の安全にも貢献できる。 また、団体の活動フィールドの拡大が期待できる。	不耕作地整備によるイノシシの生息地管理は、住民の安心安全の向上に繋がる。また、景観改善が自然に親しみやすい環境作りとなる。	市民と協働で不耕作地整備事業を行うことで、獣害対策と不耕作地の改善を同時に行う仕組み作りができる。
対話方法 市との協議や打ち合わせ方法	月1回の定期活動報告を行う。必要に応じて臨時ミーティングを行う。 また、Eメール等でも情報交換を行う。		
事業の周知や評価の方法 (具体的な目標値など)	団体HPに活動予定と報告ページを設け活動状況を公表する。 美瀬自治会の回覧や掲示板で実施日やボランティア募集の通知を行う。 イノシシによる掘り返しやスタ場の使用状況等の痕跡調査の比較を行う。		
備考	関係団体等		
	その他(添付書類等)		

企画提案型協働事業経費内訳書

総事業費（無償分を含む） 金 2,667,000 円市から団体への委託費 (金 1,387,000 円)

【歳入】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
市に負担を求める額	人件費(刈草処理、伐採竹処理) 925,000 円	1,387,000 円
	車両費、保険料、備品費、燃料費 462,000 円	
その他収入		
提案者負担分	サーバー・ドメイン利用料(年間)	14,000 円
無償労働力等換算金額	労働力 1,080,000 円、 機材 186,000 円	(1,266,000 円)
合 計（無償分を含めない）		1,401,000 円
無償分を含めた合計額		(2,667,000 円)

【歳出】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
人件費	刈草処理:40L/坪×2,400 坪=96,000L 収集搬出作業(25 回)=142 時間	142,000 円
	リサイクル処理(25 回)=240 時間	240,000 円
	竹竿処理:5 本/坪×600 坪=3,000 収集搬出作業(21 回)=138 時間	138,000 円
	リサイクル処理(16 回)=135 時間	135,000 円
	竹枝葉粉碎処理(粉碎片竹林内散布): 450 円/坪×600 坪	270,000 円
車両費	軽トラック46回×2,000 円	92,000 円
保険料	傷害保険	70,000 円
備品費	替刃(刈払機/チェーンソー)、チェーンソーオイル、ノコギリ、集草バック、リヤカー、ヘルメット、フェイスガード、ゴーグル、燃料携行缶、熊手、他	261,500 円
燃料費	ガソリン、2 サイクルエンジンオイル(刈払機、チェーンソー、粉碎機用)	38,500 円
役務費	サーバー・ドメイン利用料 14,000 円/年	(14,000 円)
提案者が負担する	草刈り/伐採作業:48 回=984,000 円	(1,080,000 円)
無償労働力	HP 活動報告作成・更新:2 時間×48 回=96,000 円	
提案者が負担する	刈払機 1,000 円/日×75 台、チェーンソー1,000 円/日×48 台、	(186,000 円)
無償機材等	粉碎機 3,000 円/日×21 台	
合計（無償分を含めない）		1,401,000 円
無償分を含めた 合計額		(2,667,000 円)

(様式④)

年間事業スケジュール

実施予定日	活 動 内 容	必要経費	参加人数
4月上旬	保険契約	70,000 円	
4月～9月	耕作放棄地整備	600,000 円	116 名
	・整備地域確認と痕跡調査		2 名
	・草刈整備(刈草収集搬出・リサイクル処理) 12 回	444,000 円	72 名
	・整備済み地草刈り(刈草収集・リサイクル処理) 4 回	44,000 円	12 名
	・通路、竹林回り草刈り(刈草収集・リサイクル処理)5 回	55,000 円	15 名
5月下旬	・一般ボランティア参加の草刈整備(刈草収集・リサイクル処理) 1 回	57,000 円	15 名
10月～3月	竹林整備	731,000 円	146 名
	・整備地域確認と痕跡調査		2 名
	・間伐、枯れ竹整備(伐採竹搬出・リサイクル処理、枝葉粉碎処理) 15 回	585,000 円	90 名
	・竹林下草刈り(枝葉粉碎処理) 3 回	25,000 円	13 名
	・整備済み地草刈り(刈草収集・リサイクル処理) 3 回	35,000 円	13 名
	・通路、竹林回り草刈り(収集・枝葉粉碎処理) 2 回	30,000 円	13 名
	・一般ボランティア参加の竹林整備(伐採竹搬出・リサイクル処理、枝葉粉碎処理) 1 回	56,000 円	15 名
	合計	1,401,000 円	

(提案書 様式①-1)

協働の機会提案書(新規提案用)

2017 年 9 月 25 日

印西市長

様

(登録者) 登録番号 23-003

名 称 NPO 法人谷田武西の原っぱと森の会

所在地 印西市木刈 3-9-1

代表者職氏名 理事長 矢野眞理 ㊞

連絡先 白井市大山口 2-4-6-503

電話 : 080-5087-7235

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	武西の里山 保全と調査事業
現状・課題 (指定テーマ型の場合はテーマ名のみ記入)	2016 年度に千葉県から印西市に譲渡された武西地区の里山は、都市に隣接しているにもかかわらず、生物多様性に富んだ貴重な自然環境を残している希少な場所です。ここには今も、絶滅危惧種をはじめとする希少な動植物が多様性をもって生息しています。 一方、里山の環境は人の生活に密着して維持されてきたため、燃料や芝草を採取する必要がなくなった今も、適切に人の手を入れなければたちまち荒廃し、生物多様性がもたらしている生態系の均衡はまたたくまに崩れてしまいます。 また、里山は人の目がつきにくいということで、ごみの不法投棄、違法に侵入し使用する行為、絶滅危惧種を盗掘する行為などが後をたちません。 印西市所有地となり、今後どのような里山にしていくか、市としてのビジョンができていくものと思われますが、その間も、劣化や荒廃に至らぬような保全事業を必要としています。
提案理由	里山の保全作業を行うにあたっては、いつ、どの場所を、どんな頻度で行うかを判断し計画をたてます。また、その計画が適切であったかどうかを、モニタリングや環境調査によって評価し確認をしていく必要があります。 ○保全事業の考え方: 保全作業と調査・モニタリングは一体となっている 原生のものではない二次林、二次草原などの生物多様な環境は人の手の保全を必要としますが、その反面、草刈りや湿地の整備などで人の手はいることが適度な攪乱にならず、過度の攪乱になることもあり得るため、行われる保全作業が的確であるかどうかを、環境を調査することで判断します。

	調査の結果、劣化が認められるようであれば、次の保全計画を見直して実施することになります。 保全事業のなかで、保全作業は、実行のパートであり、環境調査・モニタリングはチェックする機能をもつパートです。 <u>○環境調査とモニタリングの違い</u> 環境調査としての昆虫、植物などは少なくとも1年のうち、短期間に変化が認められるものであるため、つぶさに観察し記録する。保全作業の結果を細かく見ていくために行うものです。 モニタリングは定点において、その環境を指標する生き物を選択し、長い期間をとって調査する。指標種の推移を見ていくことによって、環境の変化の様子を長いスパンで把握することができます。 当会が行っているモニタリングは北総里山会議による武西の整備計画提案書に準じており、北総里山会議の自然環境部会として実施した2010年より継続して現在まで行っております。 これら三つの事業を一体として行っていくことで、環境の劣化を防ぎ、再生をはかることができます。 今、自然環境を次の世代へ繋げていくための、無理のない社会的な仕組みを作ることが必須です。 行政と市民との協働が、丁寧な事業展開と経験を生み出し、よりよい里山の環境づくりを可能にするものと考えます。
提案内容 (予算の概算も記入)	1.保全事業 1)草地の草刈り 2)湿地の手入れ 3)ゴミ拾い 2. 環境調査事業 * 東邦大学と協力 1)植生 草地・湿地 2)生きもの 両生類・昆虫類・魚類 3)水質調査

貴団体の特性、協働 で実施するメリット (提案者が事業実施できる能 力や有利なアピールポイント)	当会は印西市及び白井市の環境団体の連合体である北総里山クラブの谷田武西プロジェクトチームが前身となります。2010年度にNPO 法人となりましたが、プロジェクトチームであった時代、2008 年から対象地が印西市と白井市に無償譲渡される前年度まで、千葉県旧企業庁に立ち入り申請を行い、荒廃による環境の劣化を防ぎ、自然環境を維持する保全活動と環境調査やモニタリングを展開してきました。この保全活動には草刈りなどにとどまらず、百トン単位のごみの撤去なども含まれています。 武西の里山の一部が印西市の所有地となった今、当会が経験によって得た保全の方法と、毎年積み上げてきた調査による具体的な環境の把握の実績は、今後市が当地を管理保全していく上で、参考になるのではないかと考えております。 また、北総里山クラブ企画によるごみの撤去作業、2013 年の印西市と当会の企画提案型協働事業での里山の不法投棄ごみの撤去事業、2016 年の印西市・企業庁主催の里山の大掃除事業により、湿地に長年放置されたごみの、掘りあげ撤去がようやく終了し、湿地のごみの後には水辺が生まれました。今、葦原の変わりゆく景観は、また新たに生きものたちの息吹を感じさせてくれています。 2017 年度は環境保全課に毎月立ち入り願いを提出し、相談、協力しながら活動を続けておりますが、市との協働とすることによって、より緻密な里山の保全活動を展開することができるようになると期待しております。
事業実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)	①環境の劣化を防ぎ、保護すべき対象を守ることができる ②環境の荒廃を防ぎ、里山の景観を良好に保つことができる ③環境の調査により、実態を把握しより良い保全方法の構築に向かうことができる 今後の展望 ①提案理由の欄で説明したように、本来、生物が多様な里山の保全事業は保全作業・環境調査・モニタリングを一つの流れとして進めたいところだが、今回の協議では時間切れとなり、当提案型協働事業からは外すこととなった。今後の展開ではモニタリングも含めた事業を実施したいと考える。 ②無理なく継続できるような保全の方法・仕組みをつくる ③人と生きものが共生できるようなグリーンインフラを構築する ④行政と市民による自然環境の維持と再生のモデルケースとなる

(提案書 様式②)

協働事業計画書		
事業名	武西の里山 保全と調査事業	
事業の目的	生物多様性のある自然環境を維持・再生する	
市の施策上の位置付け及び協働部署	(施策名)かけがえのない自然環境の保全と活用 (部署名)環境保全課	
事業期間	平成 30 年 4 月 1 日 ～ 平成 31 年 3 月 31 日	
事業の内容 詳細に役割分担別に記入 (役割分担を、できれば事前に市の担当に相談して記すか、希望を記す)	提案者	市
	一、保全事業 <u>1.保全作業</u> 1)草地の草刈り 必要に応じて、市が業者委託した場所の補足作業及び、細かく観察しながら作業時期等を判断することが必要な場所 2)湿地の手入れ 3)赤道のガラス片などのゴミ拾い <u>2. 環境調査</u> 1)植生 草地・湿地 2)生きもの 両生類・昆虫類・魚類 3)水質調査 二、以上の事業の宣伝と報告	1.草刈機の貸し出し 市が所有する草刈り機を貸し出し、運搬する。 2.乗用草刈り機の安全講習講師派遣 3.ゴミの収集(クリーン印西推進運動) 4.地元や関係各所との調整 5.広報いんざいの広報
事業に要する経費 ※詳細については、様式③による	181,360 円 (無償 713,250 円)	300,000 円
事業の運営体制 (事業関係者、協力者、有資格者など)	環境調査・保全協力：東邦大学理学部保全生態学研究室 西廣淳氏 同植物生態学研究室 下野綾子氏 植物同定：茨城県自然博物館 小幡和男氏 昆虫同定：日本蜻蛉学会会員 柄澤保彦氏	

	提案者	市 民	市
協働のメリット (各立場にとっての効果を簡潔に)	①市と協働することで団体の事業をより公のものとしてすることができる ②市と協働することによってフィールドの将来について、より深く協力することができる ③会の特性を生かすことができる	①不法立ち入りや不法なゴミ投棄に対する近隣住民の、心配や不安を取り除くことができる ②生物多様な自然環境を享受することができる ③環境教育や大学等研究機関の研究に役立てる	①自然環境の維持と再生を行うことができる ②行政・市民・研究機関との協力による、市の生物多様性保全のモデルケースとして育てることができる
対話方法 市との協議や打ち合わせ方法	市役所にて直接の打合せ・メール・電話		
事業の周知や評価の方法 (具体的な目標値など)	事業の周知: 市の広報・チラシ・市の催しなどでの展示・市民活動支援センターを通じた発信・ミニコミ紙・ホームページ 評価: 作業前後の写真、事業の記録、環境調査・モニタリングによる結果 収集したごみの量		
備 考	関係団体等		
	その他(添付書類等)		

企画提案型協働事業経費内訳書

総事業費（無償分を含む） 金 1,194,610 円市から団体への委託費 （金 300,000 円）

【歳入】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
市に負担を求める額	人件費、報償費など	300,000
その他収入		0
提案者負担分	機材レンタル代*1、機材購入費*2、混合ガソリン代*3、保険料*4、消耗品費*5	181,360
無償労働力等換算金額	無償労働力 565,250 円、無償機材 148,000 円	(713,250)
合 計（無償分を含めない）		481,360
無償分を含めた合計額		(1,194,610)

【歳出】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
人件費	植物調査 3人×3時間×17日=153時間 昆虫調査 2人×3時間×9日=54時間 水辺の生きもの調査 8人×3時間×1日=24時間 水質調査 3人×3時間×2日=18時間 調査報告書作成 4人×2時間×2日=16時間 合計 265時間×850円=225,250円	225,250
機材レンタル代	刈払機など機材運搬用レンタカー代 5,400円×12日(講習会2日含む)=64,800円*1	64,800
交通費	刈払機講習会講師の交通費 2,000円	2,000
機材購入費	コンパクトpHメータ B-712 堀場製作所 LAQUAtwin 24,948円*2 コンパクト電気伝導率計 B-771 25,812円*2 ルーペ 2,000円×5個=10,000円*2	60,760
燃料費	草刈機用ガソリン 5ℓ×7日(講習会1日含む)+2ℓ×4日(小型だけ使用)=43ℓ。120円×43ℓ=5,160円 刈払機用混合ガソリン、草刈り 2ℓ×10日+講習会4ℓ=24ℓ。350円×24ℓ=8,400円*3	13,560

報償費	刈払機講習会講師謝礼 15,000 円 植物調査講師謝礼 5,000 円×4 人=20,000 円 昆虫調査講師謝礼 5,000 円×2 人=10,000 円	45,000
保険料	ボランティア保険料 30,100 円×4	30,100
消耗品費	川の水調査セット TZ-RW、パックテスト ZAK-COD など 9,390 円 鎌 1,500 円×2 個=3,000 円 泥すくい 1,500 円×2 個=3,000 円 オイル、プラグなど 600 円×2 個=1,200 円 刈払機替刃 2,200 円×4 個=8,800 円×5 熊手 300 円×5 個=1,500 円×5 軍手、ブルーシートなど 2,000 円×5 用紙 5,000 円×5	33,890
印刷費	環境調査報告書の印刷用インク代 6,000 円	6,000
提案者が負担する 無償労働力	草刈り 11 人×3 時間×10 日=330 時間 水辺の保全 5 人×3 時間×4 日=60 時間 ゴミ拾い 10 人×3 時間×6 日=180 時間 メンテナンス 5 人×2 時間×2 日=20 時間 講習会 10 人×3 時間+15 人×3 時間=75 時間 合計 665 時間×850 円=565,250 円	(565,250)
提案者が負担する 無償機材等	小型草刈機2台、刈払機4台、チェーンソー1台など 8,000 円×10 日=80,000 円 気象モニター測定器 1,000 円×34 日=34,000 円 報告書作成用カメラ 1,000 円×34 日=34,000 円	(148,000)
合 計 (無償分を含めない)		481,360
無償分を含めた合計額		(1,194,610)

年間事業スケジュール

*状況によって時期や内容は変化することがある

保全作業（草刈り）	10回(乗用使用6回、不使用4回)
（水辺の整備）	4回
ガラス片等ゴミ拾い	6回
植物調査	17回
昆虫調査	9回
水辺の生きものの調査	1回
水質検査	2回
安全講習会	2回(乗用草刈機、刈払機各1回)
メンテナンス作業	2回
報告書作成	2回

実施予定日	活 動 内 容	必要経費	参加人数
2018 年 4 月	ボランティア保険契約	30,100	
	水辺・水路・開放水面の整備①	6,000	5名
	赤道のガラス片等の除去作業①	3,500	10名
	作業用機器の点検メンテナンス作業①	10,000	5名
	植物調査①	22,650	3名
	植物調査②	7,650	3名
	昆虫調査①	5,100	2名
2018 年 5 月	水辺・水路・開放水面の整備②	0	5名
	赤道のガラス片等の除去作業②	0	10名
	安全講習会①乗用草刈機(乗用使用)	6,000	10名
	草刈り作業①(乗用使用)	6,700	11名
	植物調査③(講師依頼)	17,650	3名
	植物調査④	7,650	3名
	昆虫調査②(講師依頼)	10,100	2名
2018 年 6 月	水辺・水路・開放水面の整備③	0	10名
	安全講習会②刈払機(斜面の刈方)	23,800	15名
	草刈り作業②	6,340	11名
	植物調査⑤	7,650	3名
	植物調査⑥	7,650	3名
	昆虫調査③(講師依頼)	10,100	2名

2018 年 7 月	草刈り作業③(乗用使用)	6,700	11 名
	草刈り作業④	6,340	11 名
	植物調査⑦	7,650	3 名
	植物調査⑧	7,650	3 名
	昆虫調査④	5,100	2 名
2018 年 8 月	植物調査⑨	7,650	3 名
	植物調査⑩	7,650	3 名
	昆虫調査⑤	5,100	2 名
2018 年 9 月	草刈り作業⑤(乗用使用)	6,700	11 名
	植物調査⑪(講師依頼)	17,650	3 名
	植物調査⑫	7,650	3 名
	昆虫調査⑥	5,100	2 名
2018 年 10 月	作業用機器の点検メンテナンス作業②	0	5 名
	植物調査⑬	7,650	3 名
	植物調査⑭	7,650	3 名
	昆虫調査⑦	5,100	2 名
2018 年 11 月	水辺・水路・開放水面の整備④	0	5 名
	植物調査⑮	7,650	3 名
	植物調査⑯	7,650	3 名
	昆虫調査⑧	5,100	2 名
	水質検査①	67,800	3 名
	水質検査②	7,650	3 名
2018 年 12 月	草刈り作業⑥(乗用使用)	6,700	11 名
	赤道のガラス片等の除去③	0	10 名
	水辺の生きものの調査	20,400	8 名
2019 年 1 月	赤道のガラス片等の除去④	0	10 名
2019 年 2 月	赤道のガラス片等の除去⑤	0	10 名
	草刈り作業⑦(乗用使用)	6,700	11 名
	草刈り作業⑧	6,340	11 名
	報告書作成①	12,800	4 名

2019 年 3 月	赤道のガラス片等の除去⑥	0	10 名
	草刈り作業⑨(乗用使用)	6,700	11 名
	草刈り作業⑩	6,340	11 名
	植物調査⑪	7,650	3 名
	昆虫調査⑨	5,100	2 名
	報告書作成②	6,800	4 名
合 計		481,360	

協働の機会提案書(新規提案用)

様

連絡先

印

みんなでつくる 「木下街道膝栗毛」リターンズ

歩けば、自然がいっぱいあり、あわせて文化財を上手く活用することによって、印西市の魅力をよりパワーアップして市内外にPRできると思う。

平成元年から 20 年まで 20 回にわたって実施された「木下街道膝栗毛」(以下「膝栗毛」とする)は惜しまれながら終了したが、かつての盛大だった「膝栗毛」をもう一度、と熱望する声も多い。平成 30 年という節目の年に、市民参加の大きな事業として復活させたい。

かつての「膝栗毛」は「評定委員会」が中心となって各種団体の協力を仰いでいたようだ。本事業でも、協力してもらえる団体や、計画段階からの市民参加を募り、プロジェクトチームを作って進めていきたい。衣装着用や接待も印西市らしい趣向を凝らしたものにしたい。

当会は「膝栗毛」をお手伝いする参加団体のひとつであり、「膝栗毛」が20回で終了した後も、平成21年からその名称を受け継ぐ形で小規模ながら毎年実施してきた。しかし、現会員22名の案内ボランティア団体では参加者の定員を100名程度にせざるを得ず、過去の「膝栗毛」のノウハウを持っている市や観光協会のリードが不可欠である。

印西市の歴史や文化に対する興味関心が、ひいては文化の継承や新しい発展につながりうると期待する。ニュータウンと既存の地区を有する当市の実情も、古い歴史や文化の理解が深まれば新しい形での継承が期待できる。また、事業に協力してもらえる個人・団体との交流はさらなる事業の発展につながるかもしれない。

協働事業計画書			
事業名	みんなでつくる「木下街道膝栗毛」リターンズ		
事業の目的	平成元年から 20 年まで実施された「木下街道膝栗毛」を新しい形で行うことにより、印西市の魅力を市内外に発信する。さらに、貴重な文化財に対する市民の関心や理解を深め、多方面での市民間の交流も図る。		
市の施策上の位置付け及び協働部署	(施策名) 文化財の保護・活用 (部署名) 教育委員会 生涯学習課		
事業期間	平成 30 年 4 月 1 日 ～ 平成 31 年 3 月 31 日		
事業の内容 詳細に役割分担別に記入 (役割分担を、できれば事前に市の担当に相談して記すか、希望を記す)	提案者		市
	- 協力者の募集 - 他団体への協力依頼と役割分担 - 打ち合わせ会議の開催 当日のプログラムについて 行程、運行について 衣装について 記念品、接待について		- 施設利用の手配 - 学芸員による解説 - 作成資料の監修 - 文化財見学の関係者との調整 - 市民アカデミーに関すること - 他団体との調整 - 衣装の貸し出し - 市長、いんざい君の招待
事業に要する経費 ※詳細については、様式③による	25,000 円		702,000 円
事業の運営体制 (事業関係者、協力者、有資格者など)	当会会員、他団体協力者、公募市民、市民アカデミー受講者、生涯学習課などからなるプロジェクトチーム		
協働のメリット (各立場にとっての効果を簡潔に)	提案者	市民	市
	- 行事の信頼性が増す。 - 関係者との調整を任せられる。 - 会活動に対する市民の認知と理解が得られる。 - 他団体との今後の協力 - 会員増加につながり今後の活動推進力となる。	- 文化財の理解から地域への愛着が醸成される。 - 新旧住民の交流 - 関係市民団体間の交流によって、つながりが強化される。 - 市民活動に参加するきっかけづくりとなる。	- 地域文化に関する市民教育 - 文化財の活用 - 市民活動団体の活用 - 市民アカデミーの充実 - 印西市という地域ブランドの発信 - 木下周辺の経済波及効果が期待できる。
対話方法 市との協議や打ち合わせ方法	プロジェクトチームに加わってもらい、随時、意見交換と経過報告も行う。		
事業の周知や評価の方法	周知…広報いんざい、ポスター、チラシ、ミニコミ誌など 評価…参加者にアンケートを実施		

(具体的な目標値など)	
備 考	関係団体等 印西市観光協会, 木下まち育て塾, 武蔵屋まちかど博物館保存会, エコネットちば, 印西地域史研究会, 千葉ニュータウン新聞, 印西音頭保存会、他
	その他 (添付書類等) 事業実施案, 「木下街道膝栗毛」の歩み, 本年のチラシ

(提案書 様式③)

企画提案型協働事業経費内訳書

総事業費（無償分を含む） 金 1, 813, 000 円

市から団体への委託費 （金 702, 000 円）

【歳入】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
市に負担を求める額＊	人件費・報償費・消耗品費・原材料費・印刷製本費・通信費・保険料・その他	702,000
その他収入	参加費 500×300 人	150,000
提案者負担分	会議経費 5,000×5 回	25,000
無償労働力等換算金額		(936,000)
合 計（無償分を含めない）		877,000 円
無償分を含めた合計額		(1,813,000)

【歳出】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
人件費 ＊	交通指導員 1000×3 時間×14 人＝42,000	42,000
報償費 ＊	関係者謝礼 10,000×15 団体＝150,000	150,000
消耗品費・原材料費＊	雨天時雨具 200×50＝10,000 箸・容器など 10,000 バラッパまんじゅう・豚汁 400 人分 20,000＋40,000＝60,000	80,000
印刷製本費 ＊	ポスター50 枚, チラシ 1,000 枚, 配布資料 400 枚	100,000
通信費 ＊	郵便送料	5,000
保険料 ＊	行事傷害保険 400 人	15,000
会議費用	会議経費	25,000
その他 ＊	衣装クリーニング 35 セット＋はっぴ 40 点 300,000 記念品 400×400 人＝160,000	460,000
提案者が負担する 無償労働力	会議・試走・勉強会・資料作成 900×3 時間×20 人×12 日＝ 648,000 前日準備と当日 900×8 時間×20 人×2 日＝288,000	(936,000 円)
提案者が負担する 無償機材等		(0 円)
合 計（無償分を含めない）		877,000 円
無償分を含めた合計額		(1,813,000)

(提案書 様式④)

年間事業スケジュール

実施予定日	活 動 内 容	必要経費	参加人数
平成 30 年 4 月	広報にて協力団体・個人の募集		
5 月	プロジェクトチーム結成, 第 1 回会議 顔合わせ	5,000	50 人
6 月	第 2 回会議 実施要領話し合いと分担決め	5,000	50 人
7 月	第 1 回試走 コース決定,		30 人
	ポスターチラシ制作開始	60,000	
8 月	第 3 回会議 経過報告	5,000	50 人
	参加者募集開始		
	配布資料作成	40,000	
9 月	参加者募集締切り		
	第 4 回会議 最終打合せ	5,000	50 人
10 月	事前準備	302,000	
	前日準備		
	当日		参加者 300 人 関係者 100 人
	片付け	450,000	
	反省会	5,000	50 人

みんなでつくる「木下街道膝栗毛」リターンズ 案
仮題（ 歩いてたずねる印西のたからもの ）

日時 平成 30 年 10 月頃を予定 第 1 土曜…木下駅南骨董市開催日
第 1 土・第 3 日…まちかど博物館開館日
第 1・3 土日曜…ぶらり川めぐり開催日
第 3 土曜…軽トラ市（川の停車場）
竹袋調整池のコスモス（エコネット千葉）
※ 竹袋神社祭礼 スポーツフェスを考慮して日程調整
土曜日開催，雨天順延

集合・解散場所 中央公民館

テーマ ・木下大森周辺の歴史を学びその文化にふれ，印西の魅力を再発見する。
・かつての「膝栗毛」を再現，さらに新しい形へ発展させる。

見どころ 木下河岸（利根川堤防），木下まちかど博物館（見学），上町観音堂（県指定文化財見学），歴史資料センター（解説），木下貝層（国の天然記念物），長楽寺（県指定文化財見学），大森鳥見神社，上宿古墳（市の史跡見学），巖島神社，武蔵屋（国登録有形文化財見学）など

参加者 申込み制 300 人程度

運営チーム 公募（個人・団体）＋生涯学習課＋市民アカデミー地域活動課程受講者
＋関係団体＋当会 50 人程度

内容 プログラムおよび詳細はチームで話し合い決定する
案内… 当会が主として運行担当
説明は文化班および歴史資料センターにもお願いする
市民アカデミー受講者にも担当してもらうことも可
衣装着用… 35 点確認 その他，はっぴ・のぼり（在庫のもの）を使用
班毎にテーマある衣装を工夫
仮装希望者も募集（10 名程度）
着付けはボランティアで
接待… バラッパまんじゅう・豚汁など地元のグルメ
記念品… 木下らしいもの
ゲスト… 市長・いんザイ君・「膝栗毛」OB の方々

衣装リスト 殿様，水戸黄門，助さん，格さん，新撰組，岡っ引き，飛脚，忍者
女旅人，鳥追い，歌人，火消し，山伏，百姓，僧侶，町娘，渡世人など

木下街道膝栗毛の歩み

回	年月日	出発地	コース
1	H1. 11. 2	木刈保育園→	浦幡新田→大塚→和泉新田→鹿黒→長楽寺→河岸→中央公民館
2	2. 11. 4	中央駅前公民館→	小倉→亀成→発作→六軒→中央公民館
3	3. 11. 3	小林駅→	道作古墳→宗甫→別所→竹袋→河岸→中央公民館
4	4. 10. 18	千葉 NT→	小倉→和泉→鹿黒→大森→木下→利根川堤防
5	5. 10. 17	千葉 NT→	大塚→和泉→亀成→発作→六軒→中央公民館
6	6. 10. 23	船穂中学校→	結縁寺→丸山観音堂→西の原小→別所→竹袋→木下→中央公民館
7	7. 10. 15	小林北小→	光明寺→巴塚→小林鳥見神社→平岡鳥見神社→竹袋→河岸→中央公民館
8	8. 10. 20	千葉 NT→	大塚→和泉→鹿黒→大森→木下→河岸→中央公民館
9	9. 10. 19	木刈小→	白幡→宮内→第六天→発作→六軒→中央公民館
10	10. 10. 19	牧の原→	宗甫→宝泉院→地藏寺→竹袋稲荷→上町観音堂→中央公民館
11	11. 10. 3	船穂中学校→	結縁寺→宗像神社→多門院→草深の森→丸山観音堂→ふれあい文化館
12	12. 10. 15	大塚前公園→	小倉→泉倉寺→和泉→大森→長楽寺→鳥見神社→中央公民館
13	13. 10. 14	中央公民館→	六軒→牧水歌碑→亀成→和泉鳥見神社→泉王寺→花の丘公園
14	14. 10. 12	小林北小→	光明寺→小林鳥見神社→平岡鳥見神社→山根山→貝層→中央公民館
15	15. 10. 26	中央公民館→	山根山→貝層→上町観音堂→長楽寺→鳥見神社→六軒→中央公民館
16	16. 10. 2	東京電気大→	武西→安養寺→東光院→秀真生家→船尾宗像神社→戸神宗像神社→電気大
17	17. 10. 16	大塚前公園→	阿夫利神社→鳥見神社→観音寺→大六天→永治プラザ→歓喜院→大塚前公園
18	18. 10. 7	中央公民館→	六軒→牧水歌碑→発作橋→最勝院→大森鳥見神社→長楽寺→上町→中央公民館
19	19. 11. 18	小林駅北→	西福寺→光明寺→小林鳥見神社→地藏寺→竹袋稲荷→貝層→河岸→中央公民館
20	20. 11. 16	牧の原モア→	草深→古新田→大森→木下
21	21. 9. 28	牧の原駅→	草深→ふれあいの里→結縁寺→花の丘公園→NT 中央駅
22	22. 11. 14	牧の原駅→	龍腹寺→本埜二小→栄福寺→松虫寺→印旛日医大駅
23	23. 11. 20	印旛支所→	願定院→瀬戸宗像神社→徳性院→東祥寺→印旛支所
24	24. 11. 25	NT 中央駅→	武西百庚申→戸神宗像神社→東光院→船尾コミセン→結縁寺→中央駅
25	25. 11. 10	NT 中央駅→	阿夫利神社→月影の井→永治プラザ→歓喜院→泉倉寺・光堂→NT 中央駅
26	26. 11. 9	中央公民館→	巖島神社→牧水の歌碑→鳥見神社→長楽寺→上宿古墳→木下河岸→公民館
27	27. 11. 25	牧の原駅→	宗甫観音堂→瀧水寺→龍湖寺→龍腹寺→牧の原駅
28	28. 11. 13	中央公民館→	上町観音堂→歴史資料センター→平岡自然の家→道作古墳→西福寺→小林駅
29	29. 11. 12 予定	印旛支所→	栄福寺→松虫姫公園→松虫寺→印旛支所
30	30.		

「栄福寺薬師堂」のご開扉と「松虫寺」

本埜地区角田にある栄福寺薬師堂は、室町時代のとても古いお堂です。建立年代が明らかな県下最古の木造建造物といわれ、国の重要文化財に指定されています。今年は33年に一度、ご本尊の薬師如来像がご開扉の年に当たります。稚児行列もあり、にぎやかにそして厳かにとり行われるご開扉に行ってみませんか！

今回は、ご開扉と周辺の自然を楽しむAコースと、午後は松虫寺まで足をのばすBコース、2つのコースを設定しました。ご都合と体力に応じてお選びください。

【日 時】 平成29年11月12日（日） 受付 … 9：00～
出発 … 9：30

【集合・解散】 印旛支所（最寄は印旛日本医大駅） ※雨天決行

【コース】 A：印旛支所→栄福寺→印旛支所 約6km 解散は13時頃
B： // → // →松虫姫公園（昼食）
→松虫寺→姥塚→印旛支所 約12km 解散は16時半頃

【参加費】 300円（保護者同伴の中学生以下は無料）

【持ち物】 飲み物・敷物・Bコース参加者は昼食も

【募集定員】 各コース50名

申込みは11月5日までに Fax… 0476-46-0193（井越）
メール… inzaifurusato@yahoo.co.jp

※ お問い合わせは、電話 0476-46-0193（井越）まで
午後7時～9時の間にお願いします。

後援

印西市教育委員会
印西市観光協会